

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）

全国がん登録の利活用に向けた学会研究体制の整備とその試行、臨床データベースに基づく
臨床研究の推進、及び国民への研究情報提供の在り方に関する研究

研究分担者 岡本高宏・東京女子医科大学 内分泌外科・教授

研究要旨（甲状腺がん登録事業の現状と将来）

わが国の甲状腺がん登録事業はNational Clinical Database（NCD）への手術症例登録システムを利用して2015年から継続している。甲状腺がん診療の質向上と一般国民への周知・啓蒙に向けて、そのデータを利活用する体制づくりの現状と課題を明らかにし、併せて対策を検討した。

A. 研究目的

- （1）甲状腺がん登録作業を推進する。
- （2）甲状腺がん登録のデータを活用し、①わが国の手術症例の現状を明らかにする、②。予後情報を含めたエビデンスの創出を推進する。
- （3）（2）の情報を広く公開する。

B. 研究方法

- （1）日本内分泌外科学会の甲状腺がん登録に関する規定内容を参照するとともに課題を抽出し、対策を検討する。
- （2）甲状腺がん登録についてNCDと協議する。

C. 研究結果

1. 甲状腺がん登録の予後データとして全国がん登録データの予後データを反映させることについて：がん登録に予後データを含めることの重要性については論を待たないが、日本内分泌外科学会としては各施設から予後情報を追加登録する仕組みを目指している。予後データ登録のためのシステム構築について、NCD事務局およびNCDでのデータ管理を実質的に担当されている慶應義塾大学医学部 医療政策・管理学教室、山本博之先生と協議を継続することにした。
2. 症例登録内容の正誤確認について：検証は行っていない。実施の必要性に関しても学会内においては、未検討である。
3. 症例登録先について：上記のごとく一般社団法人 National Clinical Database に登録し、データ管理及びデータ分析を依頼している。
4. 非実施・非事業化について：該当なし
5. 登録事業に関する学会内での課題について：わが国の甲状腺癌診療は内分泌外科だけでなく耳鼻科、頭頸部外科においても行われているが、それらの症例はNCDには登録されない。NCDは非社員学会であっても登録は可能とする見解であるが、耳鼻科や頭頸部外科は学会としてNCDへの登録を推進する意向にはない。また、わが国の甲状腺がんの全体像を把握するには非手術症例（甲状腺微小癌や未分化癌など）の登録整備が今後の課題である。
6. 登録先の状況について：内分泌外科領域のNCDへの登録症例数は年間約23,000-25,000例である。このうち甲状腺悪性腫瘍（濾胞性腫瘍を含む）の登録数は、およそ9,500-10,000例である。甲状腺がん登録は、NCDの甲状腺疾患ケース・リポート・フォームに含まれるが、がん登録としての項目数は46項目である。
7. 短期間登録によるデータを用いての臨床研究について：これまで実施の経験はない。学会としての検討も行っていない。臨床研究ではないが、NCD事務局と連携し、アニュアルレポートの作成を行っている。本作業は2020年2月の時点でCOVID-19の影響により中断していた。その後、断続的に事務局と交渉を行ってきたが、2022年3月のミーティングで方針を確認し、作業を再開した。
8. 通年登録に関する規定および登録データの利活用に関する学会内規定について：症例登録に関して明文化された規定はない。臨床研究の実施に関しても規定はないが、NCD事務局とも協議し、わが国の甲状腺腫瘍診

療ガイドラインの検証を目的とした臨床研究を嚆矢として規定の具体化を進めている。

9. 登録データを活用した研究報告の、一般国民向けの特設説明サイトについて：そのようなサイトは有していない。まずは登録データを活用した臨床研究の実施が先決である。その実現後に一般国民に向けた、分かりやすい情報の発信を学会内で検討する。

D. 考察

日本甲状腺外科学会が2007年から休止した甲状腺悪性腫瘍全国登録は、日本内分泌外科学会が2015年からNCD症例登録に実装することにより、再開された。そのデータの利活用はわが国の甲状腺がん診療の質向上に不可欠である。さらにデータに基づく有益な情報を広く国民に提供することは専門職集団としての責務でもある。その遂行に障壁となる課題は多いが解決に向けた不断の努力を重ねる覚悟である。

E. 結論

甲状腺がん登録事業の意義を国民とともに共有し、有効な活用に向けた体制を整えてゆく必要がある。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表
1. Maki Y, Horiuchi K, Okamoto T. Fatigue and quality of life among thyroid cancer survivors without persistent or recurrent disease. *Endocr Connect* 2022 Feb 28;11(2):e210506. doi: 10.1530/EC-21-0506.

総説・著書

1. 岡本高宏. 頸部、標準外科学、第16版（田邊 稔、池田徳彦、大木隆生編）。医学書院 2022, pp 267-282.

学会発表

1. 岡本高宏. 専門医教育セミナーI「世界の甲状腺腫瘍診療ガイドラインにおける日本の立場」。第64回日本甲状腺学会学術集会, 2021.11.18-20, 東京
2. 岡本高宏. シンポジウム16「甲状腺境界悪性病変の診断と意義：細胞診不確定の病変に対する分子診断の可

能性」。第94回日本内分泌学会総会, 2021.4.21-24, 高崎.

3. Takahiro Okamoto. Special Lecture: Learning Patients' View through Research and Practice in Endocrine Surgery. 2022 Annual Meeting of the Taiwan Surgical Association. 2022.3.13, Taipei (WEB).

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他